

テーマ：貿易統計（2013年3月）  
～輸出に持ち直しの動き～

発表日：2013年4月18日（木）

第一生命経済研究所 経済調査部  
担当 主席エコノミスト 新家 義貴  
TEL：03-5221-4528

	貿易収支(億円)				輸出数量						輸入数量			
	輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU	アジア		アメリカ		EU	アジア	
	原数値	季調値	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
12	1月	▲ 14907	▲ 5235	▲ 9.2	9.8	▲ 10.1	0.1	▲ 9.8	▲ 14.9	3.2	7.7	4.2	2.9	
	2月	259	▲ 2736	▲ 2.6	9.4	▲ 3.8	14.8	▲ 11.4	▲ 8.0	3.3	5.0	11.0	▲ 0.4	
	3月	▲ 818	▲ 5912	5.9	10.5	3.6	20.1	▲ 11.1	▲ 2.1	3.2	14.1	14.8	▲ 1.5	
	4月	▲ 5184	▲ 4521	7.9	8.0	4.7	37.4	▲ 5.3	▲ 4.2	1.9	7.7	▲ 4.3	▲ 3.7	
	5月	▲ 9079	▲ 5747	10.0	9.3	9.3	39.6	1.0	2.7	8.5	5.4	9.6	6.6	
	6月	561	▲ 3555	▲ 2.3	▲ 2.2	▲ 2.4	10.8	▲ 18.6	▲ 4.2	▲ 0.5	9.2	1.9	▲ 5.2	
	7月	▲ 5286	▲ 4012	▲ 8.1	2.3	▲ 10.3	0.9	▲ 23.5	▲ 9.6	7.1	19.5	10.1	3.2	
	8月	▲ 7684	▲ 5222	▲ 5.8	▲ 5.2	▲ 4.3	12.3	▲ 19.2	▲ 6.3	▲ 2.1	3.2	▲ 2.8	▲ 7.4	
	9月	▲ 5682	▲ 9908	▲ 10.3	4.2	▲ 11.1	▲ 0.6	▲ 20.7	▲ 10.0	4.3	13.7	▲ 4.6	▲ 1.8	
	10月	▲ 5562	▲ 5275	▲ 6.5	▲ 1.5	▲ 8.1	2.4	▲ 24.4	▲ 6.6	▲ 1.0	▲ 3.1	2.1	2.4	
	11月	▲ 9570	▲ 8770	▲ 4.1	0.9	▲ 7.5	▲ 0.3	▲ 18.7	▲ 4.1	▲ 0.9	▲ 14.2	▲ 3.5	3.2	
	12月	▲ 6457	▲ 7701	▲ 5.8	1.9	▲ 12.2	▲ 9.8	▲ 15.7	▲ 8.2	0.0	▲ 8.3	▲ 6.7	1.1	
13	1月	▲ 16335	▲ 7318	6.3	7.1	▲ 5.9	0.7	▲ 16.0	▲ 0.2	▲ 1.1	▲ 8.5	▲ 1.9	▲ 3.7	
	2月	▲ 7795	▲ 10925	▲ 2.9	11.9	▲ 15.8	▲ 14.8	▲ 23.7	▲ 14.6	▲ 0.1	▲ 17.6	▲ 4.2	2.5	
	3月	▲ 3624	▲ 9220	1.1	5.5	▲ 9.8	▲ 10.6	▲ 16.4	▲ 7.7	▲ 5.4	▲ 20.9	▲ 0.7	▲ 7.2	

(出所)財務省「貿易統計」

## ○ 輸出に持ち直しの動き

財務省より発表された2013年3月の貿易統計では、輸出金額が前年比+1.1%、輸入金額が同+5.5%、貿易収支は3624億円の赤字となった。市場予想対比で輸入がやや下振れたため、貿易赤字額は事前予想よりも小さかった。また、季節調整値でみると輸出金額が前月比+1.6%、輸入金額が同▲1.2%、貿易収支額は9220億円の赤字だ。貿易赤字額は前月から縮小したものの、水準は依然として大きい。

3月は、輸出に改善の動きが出てきたことが注目される。物価変動の影響を除いた実質輸出（季節調整値）は前月比+1.9%（実質化と季節調整は第一生命経済研究所）だった。3月分は1-2月平均の値を上回っており、比較的強い結果と判断できる。改善が目立ったのは中国向けであり、前月比+5.1%と大きく伸びた。2月に旧正月で落ち込んだ（▲3.1%）反動を考慮しても強めと言える。中国向けの内訳では、自動車輸出が（水準は依然低いものの）前月比で大きく増加しており、日中関係悪化による悪影響が和らぎつつあることが示唆されている。また、電気機械、一般機械も3月は増加している。中国向けの低迷が続いていたことが、輸出に加速感が出ない最大の要因だったため、3月の中国向け輸出の増加は好材料だろう。なお、3月の実質輸出を地域別にみると、米国向けが前月比+0.6%（2月：+3.0%）、EU向けが同▲0.3%（2月：▲0.8%）、中国向けが同+5.1%（2月：▲3.1%）、中国を除くアジアが同+2.0%（2月：▲4.0%）だった。

先行きについては、円安による輸出押し上げ効果が徐々に顕在化することが期待される。世界経済の回復ペースが緩慢なものにとどまっていることが懸念材料だが、輸出は今後、緩やかに増加していく可能性が高いだろう。

## ○ 貿易赤字は高水準が続く

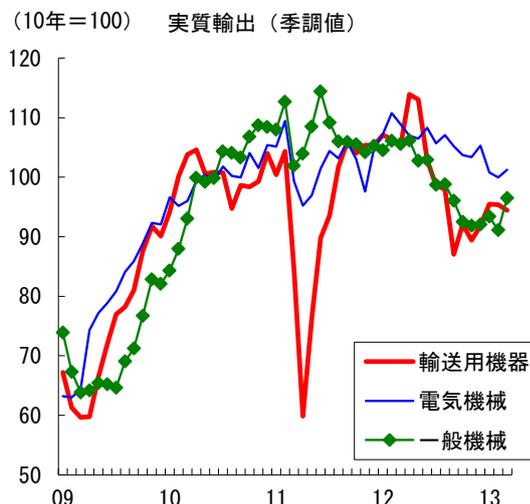
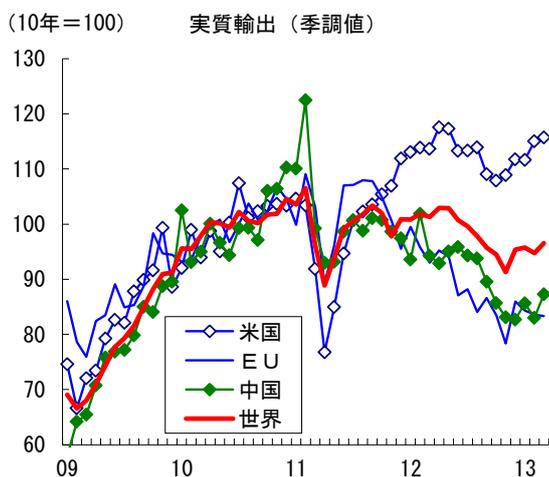
3月の貿易収支は原数値で3624億円の赤字、季節調整値で9220億円の赤字となった。貿易赤字額は前月から縮小したものの、水準は依然として極めて大きい。円安により輸入価格が押し上げられる影響が大きいため、貿易収支の悪化が続いている（円安は短期的には貿易収支の悪化要因）。

ただし、今後は昨年末以降の円安が輸出数量を押し上げる効果が顕在化してくることから、状況は徐々に変わってくるだろう。貿易赤字額は13年前半が最大となり、年後半以降は緩やかに縮小に向かう可能性が高いと予想している（燃料輸入の高止まりが続くため、貿易収支が黒字に戻るには至らない）。

### ○ 1-3月期の外需寄与度はプラスに

GDPベースで見ると、13年1-3月期の実質輸出は前期比+2%強のプラス、実質輸入が1%強のプラスになるとみられる。輸出の伸びが輸入の伸びを上回ることから、外需寄与度は前期比+0.2%ポイント程度のプラスが予想される。1-3月期の輸出増加はこれまでの大幅減の反動の面もあるため、プラスになったことを過度に強調すべきではないが、昨年後半と比べて状況が改善しつつあることは確かだろう。また、輸出を月次で見ると、3月に比較的是っきりとした増加が見られた点も好材料だ。

1-3月期のGDPでは、設備投資のマイナスになる一方、①個人消費が好調に推移したこと、②輸出が下げ止まったこと、③住宅投資の増加が続いたこと、が押し上げ要因になるとみられる。特に個人消費の強さは予想以上で、1-3月期の景気を牽引した。GDP全体でも前期比+2%超の高成長が予想される。なお、筆者は4月9日の段階で、1-3月期のGDPを前期比年率+2.1%と予想していた<sup>1</sup>が、3月の輸入が下振れたことで、予想には若干上振れ余地が出てきた。



(出所) 財務省「貿易統計」

(注) 実質化と季節調整は第一生命経済研究所

<sup>1</sup> 詳しくは Economic Trends 「13年1-3月期のGDPは2%成長に（1-3月期GDP暫定予測）」（4/9公表）をご参照ください。